

徳之島事務所（令和5年9月分）管内情勢

農林水産業関連

1 畑かん営農推進に向け、マイスターと意見交換

9月1日に伊仙町ほーらい館で畑かんマイスターと語る会を開催し、畑かんマイスターと関係機関38人で意見交換が行われた。

畑かん施設整備に関すること、付加価値の高い農産物生産と有利販売PRに関することをテーマに、マイスターからの提言に対する関係機関の取組状況の説明が行われた。畑かん活用による過去に取り組んだ品目の再検討や地産地消、バレイショ収穫後の期間借地による牧草植付事例紹介があった。

今後も関係機関と連携し、畑かん営農推進を図って行く計画である。



2 東京都の果実専門店でピタヤの魅力をPR

9月13日に東京都の果実専門店「新宿高野」が主催する試食会で、一般参加者6人を対象にピタヤを使った料理6品を振る舞った。

会の中では生産者代表とともに、ピタヤの品質や特性、ピタヤとドラゴンフルーツの違い、商標「徳之島宝赤」などについて紹介した。また、徳之島の地理や文化、世界自然遺産登録などについても紹介し、徳之島産ピタヤの魅力をPRした。

現在、ピタヤの新規栽培者が増えており、農業普及課では産地拡大に向けた支援を行っている。



3 さとうきび農家と関係者がインボイス制度について学ぶ

9月7日に伊仙町で、県農業経営スペシャリストの川畑税理士を講師としたさとうきびインボイス制度研修会を開催し、農家やハーベスタ営農集団、関係者合わせて54人が参加した。

インボイス制度はさとうきびの生産、農作業受委託への影響が懸念されており、制度の概要と今後考えられる影響等について理解を深めた。

また、研修会終了後に個別相談会を開催し、個々の経営における影響について相談する場を設けた。今後も制度の周知を図り、生産者へ支援を行っていく。



4 天城町肉用牛振興会が4年ぶりに通常総会・研修会を開催

8月30日に天城町で、町肉用牛振興会総会が4年ぶりに開催された。当日は会員142人、来賓や関係者合わせて約170人が出席した。

近年の子牛高値相場や国の増頭支援策などで、繁殖牛頭数は増加し、令和4年度は子牛出荷頭数が初めて3,000頭を超え、3,087頭となった。

総会では全ての議案が承認され、総会後は、経済連からインボイス制度について、農業普及課から肉用牛経営のコスト低減の取組について、島内事例を紹介しながら研修を実施した。

5 島内産の糖蜜を利用し、ハカマロールサイレージの品質向上を図る

9月20日、徳之島町のさとうきび夏植え採苗ほ場にて、ハカマのロールサイレージ調製を行った。

6月の給与調査で明らかになった品質や嗜好性の課題解決を図るため、ロールサイレージ調製時に、島内産の糖蜜を水で希釈したものをハカマに噴霧した。約10aのほ場のハカマから調製したロールサイレージの量は少ないが、これをサンプルとして、これから成分分析を行い、課題解決を図る。

